

■試験内容と準備

1級 職業として更に高度の実技と理論全般について精通している。

3級 基本的な実技と理論を修得している。

2級 職業としての実技と理論を修得している。

4級 初歩的な実技と理論を修得している。

		試験科目	当日までに準備しておくところ	試験時間	持参品	作業台
1級	実技	女子用裕長着 広衿で別付けとする 共衿は別掛けとする ただしくけは束ぐけでもよい 寸法は指定しない 材料は紬以外の絹布（羽二重、綸子、縮緬等）	①裁断、へら付け（しるし付け） ②すべての箇所（幅の）へら付け（しるし付け、チャコ、折り等）はしてきてはいけない ③付属材料＝裾芯、三つ衿芯	8時間30分	・裁縫道具 ・2本差鋺一式（鋺2本使用可） ・座布団 換算表は任意	1人1台 設置済
	部分縫い	被服の種類に関する出題区分表の範囲から	材料は会場で準備します	3時間		
	筆記	職業としての和裁の常識と裁断図解 被服の種類に関する出題区分表の範囲から		50分	・筆記用具 (換算表、電卓は任意)	
2級	実技	女子用裕長着 広衿で別付けとする 共衿は別掛けとする ただしくけは束ぐけでもよい 寸法は指定しない 材料は紬以外の絹布（羽二重、綸子、縮緬等）	①裁断、へら付け（しるし付け） ②右袖を縫っておく ③表身頃は衿付けまで縫っておく ④裏身頃は衿付けまですべて縫っておく ⑤付属材料＝裾芯、三つ衿芯	6時間30分	・裁縫道具 ・2本差鋺一式（鋺2本使用可） ・座布団 換算表は任意	2人1台 設置済
	部分縫い	被服の種類に関する出題区分表の範囲から	材料は会場で準備します	3時間		
	筆記	職業としての和裁の常識と裁断図解、 被服の種類に関する出題区分表の範囲から		50分	筆記用具 (換算表、電卓は任意)	
3級	実技	女子用裕長着 広衿で別付け、束付けどちらでも可 共衿は別掛けとする ただしくけは束ぐけでもよい 寸法は指定しない 材料は自由	①裁断、へら付け（しるし付け） ②両袖、表、裏は衿付けまで縫っておく ③裏衿の小接ぎはしてくること ④裾を完成させておく ⑤付属材料＝裾芯、三つ衿芯	5時間45分	・裁縫道具 ・座布団 ※2本差鋺一式は 会場設置済 (鋺1本のみ使用) 換算表は任意	2人1台 設置済
	部分縫い	被服の種類に関する出題区分表の範囲から	材料は会場で準備します	30分		
	筆記	職業としての和裁の常識と裁断図解、 被服の種類に関する出題区分表の範囲から		20分	筆記用具 (換算表、電卓は任意)	
4級	実技	女子用浴衣 ばち衿仕立て 共衿は束付け、別掛けどちらでも可 寸法は指定しない 材料は木綿地	①裁断、へら付け（しるし付け） ②右袖を縫っておく（両袖は会場で付けること） ③身頃は衿付け、たて裄、裾まで仕上げておく ※事前に用意する部分はミシン縫製も可	3時間30分	・裁縫道具 ・座布団 ※2本差鋺一式は 会場設置済 (鋺1本のみ使用)	2人1台 設置済
	筆記	和裁の常識と裁断図解 被服の種類に関する出題区分表の範囲から		20分		

※試験科目については、和裁検定用問題集を参照のこと。